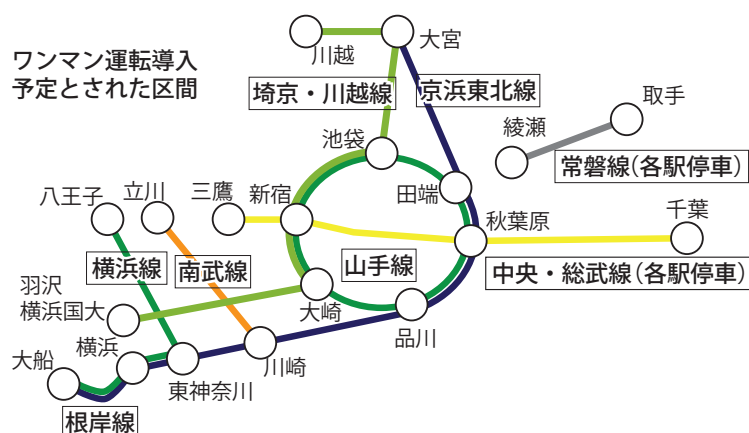


**J R 南武線 ワンマン化で遅れ2倍に  
融合化・組織再編攻撃に反対しよう**



昨年11月、JR東は首都圏の主要線区7路線でのワンマン導入を発表しました。今年の3月ダイヤ改からは常磐線と南武線でのワンマン化が強行されています。

「10分以上の遅れ」が2倍に

ところが南武線では、利用者から「遅延が増えた」という声が多く寄せられるようになりました。横浜支社も遅延状況を確認せざるをえなくなりました。その結果、4～6月の遅延状況を前年と比較すると、特に朝の通勤時間帯で遅延が増えていると発表しました。

具体的なデータは明らかになっていませんが、「10分以上の遅れが前年同期比で2倍以上」

「遅延の発生した日数には変化がなく、遅れの幅が長くなっている」とされています。

原因は明らかにワンマン化

横浜支社は原因について、「車両の仕様が  
変わってドアが開くまでの時間が延びた」「放  
送が車両側面のスピーカーからになって聞こ  
えにくくなり、乗降時間が長くなった」「混  
雑率が上昇した」などといっています。そし  
て、「ワンマン化を見直す考えはない」と語っ  
ています。

しかし、原因がワンマン化であることは誰が見ても明らかです。なぜ、こんなひどいごまかしをするのでしょうか。

喜勢社長は、「30年頃に車掌1100人の要員削減」「『創造的な仕事』へシフトさせる」と語りました。列車がどれだけ遅れようと、乗客からどんなに苦情が寄せられようと、「ワンマン化の結果だ」と認められない——だから、こんなごまかしをしているのです。

## 職場に闘う労働組合を

これは会社の攻撃の矛盾です。攻撃は決して万全ではなく、様々な矛盾だらけです。会社が職名を廃止しようと、融合化・統括センター化を進めようと、実際に列車を運行しているのは現場で働く乗務員です。だからこそ、職場からの声と闘いにこそ、攻撃を打ち破る力があります。